

※このコーナーでは、村で暮らす村外出身者を不定期で紹介しします。

夫婦2人3脚で 自立した農家に成長し 普代の地で夢は続く



「忙しいけど毎日が充実しています」と話す梅垣さん夫妻



梅垣博継さん (44歳)
かおりさん (37歳)
風汰くん (3歳)

博継さんは一戸町出身。かおりさんは東京都出身。昭和59年博継さんは東京都内のコンピューター会社に勤務。かおりさんとは平成7年に結婚。同12年村内のホウレンソウ農家で研修。同13年4月就農。

仕 事まみれの毎日。疲れて帰宅すれば深夜2時。梅垣博継さん、かおりさん夫妻は東京でそんな生活を続けていました。「田舎でゆっくり暮らしたい」。2人の心の片隅にはいつもそんな気持ちがありました。

ある日、電車での通勤途中に「Iターン・Uターンフェア」開催の広告が、かおりさんの目に留まりました。数週間後、迷わず会場に向かった2人。会場内を一回りして、新規就農者への助成制度など条件が整っている普代村に就農相談しました。「普代村で暮らしてみよう」。2人は断られても春には普代村へ引っ越すつもりでいました。

もちろん周囲の反対もありましたが、自分たちの生活は

一生に一度。反対を押し切つて2人は普代の地で夢実現への一歩を踏み出しました。

今 から約8年前の平成12年4月、普代での新しい生活が始まりました。農業のことはまったく分からなかった2人。そんな2人が本当に生活していけるかどうか不安になりながら一生懸命頑張った日々が続きました。

1年目は同じ和野山でホウレンソウを栽培する畠山長次郎さん(69)黒崎に指導を受け経験を積みました。「当時は収入もゼロで貯金を崩して生活していました。はつきり言って大変でしたよ」とかおりさんは振り返ります。

研修を終えた2年目、2人は県営農地開発事業で整備された農地を335坪、施設ハウス10坪でスタートしました。あると言います。

自 然災害がこんなに大変なことに正直思っています。調に進んでいた矢先でした。

た。作物は、村と農協が推進する雨よけほうれんそうと加工二シジンの栽培に決めました。そして初めての農業も順調に進んでいた矢先でした。

「いろんな苦労もありました。種をまき、芽が出て収穫ができるほどの大きさに育ったホウレンソウを見てみるときのうれしさはなんとも言えませんね」と話す2人。サラリーマン時代には味わえなかった充実感が、今の生活には

平成16年には待望の長男「風汰」君も生まれ、3歳になりました。念願のマイホームも昨年12月に完成しました。現在はハウスは44坪と久慈管内でもトップクラスの規模。栽培には先進技術も導入し、新規就農者や村のモニターツアー客も受け入れるほどになり、平成18年にはいわて農林水産表彰にも輝きました。

「これまで住宅のあつせんや農地の確保など、皆さんに大変お世話になり感謝しています。農業は奥深く毎日が勉強でやりがいがあります。これからもいいものを作っていきたいです」と博継さんとかおりさんは話していました。

わたしが定住促進の担当です!



役場総務課
山道 輝 主事

空き家の情報、
教えてください!

村では、村内の空き家を有効活用し、村外からの定住を進め、村の活性化を図ることを目的に「空き家情報バンク制度」を整備しました。

この制度は所有者などから登録の申し込みのあった村内の空き家情報を定住希望者に提供するものです。

村内に空き家を所有、管理されている方やお近くにある空き家をご存じの方は、役場総務課までお知らせください。

登録した情報は、村のホームページなどでも情報を発信します。

■申し込み・問い合わせ先
役場総務課企画係 (☎35-2111、内線116)



1 ホウレンソウの摘み取り体験などモニターツアー客も積極的に受け入れています

2 ハウスは22棟44アールと久慈管内でトップクラスの規模

3 昨年の12月に完成した念願のログハウス。元村を一望でき日当たりも良好

4 普代で生まれ育った風汰君も3歳になりました。まだお手伝いはできませんが、ホウレンソウは大好きです



インタビュー

●いいところ

【自然がいっぱい】
海・山・川など豊かな自然があるところですね。そして皆さん温かいです。

【食べ物おいしい】
ウニ、アワビなど新鮮な食べ物がいっぱいありますね。しかも安いです。

●足りないところ

【子育て支援】
農業は土・日の仕事や、特に夏場は朝早く夜も遅いので、日曜日や夜など子どもを預けられる場所があればいいですね。

【農業支援】

大きなお金が動くのでそれに対しての助成などもうちょっと支援をしてもらえればありがたいですね。